

1 月のこのコラムでもお伝えしたとおりムセベニ大統領は 7 回連続の大統領選挙
当選を果たしました。今年 5 月に新しい任期が始まり向こう 5 年間、40 年以上継続し
て政権を運営することになります。

今月と来月の 2 回はムセベニ大統領の政権が成立したときの経緯についてご説
明したいと思います。それは今年 5 月 12 日に発足する新しい体制を理解する一助
にもなると思います。

今月と来月のコラムの構成は次のとおりです。

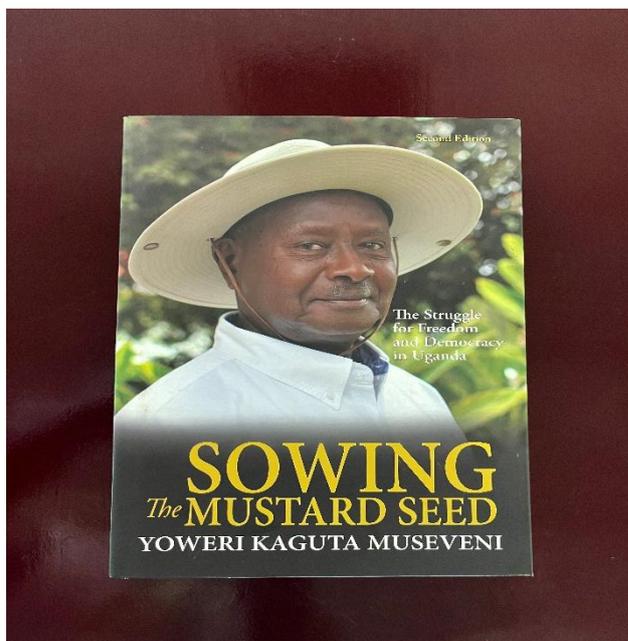
3 月号

- 1、ムセベニ大統領の生い立ち
- 2、アミン政権との対立
- 3、80 年選挙の結果：大統領との対立からブッシュ・ウォーへ

4 月号

- 1、ブッシュ・ウォーの開始
- 2、内戦の戦況：オボテ政権との戦闘
- 3、オケロ政権との対決、ムセベニ大統領の就任：内戦の終結
- 4、2002 年まで続いた内戦

これらの記述はムセベニ大統領の自伝(Sowing the Mustard Seed 2016 年第二版)
をはじめ、多くの公開資料からまとめたものです。



[ムセベニ大統領の自叙伝]

1、ムセベニ大統領の生い立ち

ムセベニ大統領は青年時代をカゾ、ニャボシヨジ(Kazo, Nyaboshoji)と呼ばれるウガンダ西部の牧畜地域で過ごしました。(注:現在はカルフラ地域と呼ばれています。)ご家族も牧畜業を営み、ムセベニ氏も家業を助けながら当時のウガンダでは標準的な家庭で育ちました。ヨーロッパの歴史について学ぶうち汎アフリカ、反植民地主義思想を学んでいったと言われていました。当時東アフリカの政治的リーダーの一人はタンザニアの独立を主導したニエレレ大統領です。ムセベニ氏はウガンダの大学ではなくタンザニアのダルエルサラーム大学に進学し勉学を続けました。モザンビークや北朝鮮を訪問したのもこの頃です。このようにムセベニ氏は若い頃より政治を志し政治指導者としての経験を積んでいきました。

70年代に入りウガンダに戻ったムセベニ氏は当時のオボテ大統領事務所には政治局職員として働き始めます。

2、アミン政権との対立

1971年1月、軍事クーデターによりオボテ政権は崩壊しイディ・アミン将軍が政権を掌握します。

ムセベニ氏はこの時、タンザニアに逃れました。タンザニア滞在中にニエレレ大統領と面会しています。ウガンダの周辺国であるタンザニアやソマリア、ケニアなどはアミン政権を承認せず対立していました。

1971年タンザニアでムセベニ氏は救国戦線(The Front for National Salvation: FRONASA)を組織します。祖国を離れた彼らの立場はアミン政権に反対する一方、オボテ元大統領とは協力関係にありませんでした。FRONASAは当時主にタンザニアから支援を受けていました。また、モザンビークからも支援を受け軍事訓練などを実施しています。同時にウガンダ国内にも支援者を養成していった時期です。

この時期にムセベニ氏は後に重要となる多くの人々と出会っています。まず後に大統領夫人となるジャネット氏と出会い結婚します。3人の子供が生まれたのもこの時期です。後にウガンダ首相となるアママ・ンババジ氏とも出会います。実弟であるサリム・サレ氏とはこの頃から行動を共にしています。

アミン政権は当初西側寄りの外交姿勢をとっていましたが国内に対し次第に独裁色を強めていきました。アジア系住民(主にインド系の住民)を追放してウガンダ人の手に経済を取り戻すという経済政策は失敗が明らかでした。政権に協力しない国民を弾圧し周辺諸国との関係も悪化しました。こうした情勢を背景に1978年10月、アミン政権下のウガンダ軍がタンザニアに侵入。タンザニアとウガンダは本格的な戦闘状態に入りました。ウガンダ軍はタンザニアのカゲラを占領しますが1979年1月には撃退されます。同年4月タンザニア軍が首都カンパラに侵攻しアミン政権は終わりを告げます。アミン大統領は最終的にサウディ・アラビアで余生を過ごしそこで死去しています。

3、80年選挙の結果：大統領との対立からブッシュ・ウォーへ

アミン政権の崩壊後、ウガンダの政局は目まぐるしく動きます。アミン政権に対抗するため、ムセベニ氏を含む様々な政治グループはモシ会議と呼ばれる勢力を形成しました。ムセベニ氏はその中心メンバーの1人となります。アミン大統領がリビア、そして後にサウディ・アラビアに亡命した後、元マケレレ大学学長のユスフ・ルレ氏が大統領につきます。1979年4月13日のことです。ムセベニ氏はこの政権の国防国務大臣兼軍事委員会副議長に就任します。しかし、ルレ政権は2ヶ月足らず、68日で崩壊します。この間ムセベニ氏は国防国務大臣から地域協力大臣に異動しました。激しい権力闘争が展開されていたのです。

1980年3月オボテ元大統領がタンザニアからウガンダに帰国の上大統領選挙を企画します。オボテ元大統領はウガンダ人民会議(Uganda People's Congress: UPC)を再組織します。UPCはウガンダの独立時にオボテ氏が組織した政党でした。この選挙にはウガンダ民主党(Democratic Party: DP カトリック教徒が多く支持した政党)などいくつかの政党が候補を立て実施に移されました。しかし、当時のウガンダは全土で選挙を実施するほどのインフラが整っているとは言いがたい状況でした。選挙の結果、オボテ氏が大統領に返り咲きますが、多くの政党がこの選挙結果を認めませんでした。

ムセベニ氏の勢力は、武力による抗争を選びます。これがその後6年にわたるブッシュ・ウォーの始まりです。

ブッシュ・ウォーの経緯などを4月号で紹介したいと思います。(以上)